

サーキット・ライダー 2002年 5月号

我が信条

私は天地の創り主創造の神を信じます。救い主イエス・キリストを信じます。助け手聖霊を信じます。私は数値で測れないもの、すなわち信仰、希望、愛、夢、平和、正義、調和を信じます。そして私は教育の力を信じます。

既に教会に連なっている兄弟姉妹や一部の方はご存知だと思いますが、私はこの度コロンビア大学ティーチャーズ・カレッジ（日本式に言うなら教育学部大学院）の教育学博士課程に合格し、9月からまた学生に戻る事になりました。学部内の所属科は美術と美術教育で、主に「宗教と美術」を専攻します。勿論、牧師として教会の仕事は続けます。ティーチャーズ・カレッジは元々、既に先生として働いている人達が更に上の学位を目指したり、研修を受けたりする為に創設された学校なので、授業は殆ど夕方以降に集中しています。ですから教会の仕事と両立できると信じています。しかし、最後に行った学校、エール大学神学部を卒業してから既に9年、何故、今更学校なのか？これは自問してきたことです。今回はその事について証しさせていただきたいと思います。

私は元々ニューヨークに美術を学ぶ為留学し、F・I・T（ファッション・インスティテュート・オブ・テクノロジー）とプラット・インスティテュートで油絵を専攻しました。今から20年近く前の話です。初めのうちは夢中で絵を描いていましたが、次第に画家を職業としていく事に疑問を持つようになりました。ニューヨークの画壇は資本家によって運営されています。画廊が画家や彫刻家の作品集を見て「売れる」と思うと作品を預かり、宣伝から販売まで全て仕切ります。オープニングのパーティーには有名な収集家や美術評論家、資本家、著名人を呼んで売り込み、作品が売れると半分以上画廊が持っていくます。アーティスト達はそれでも生活の為、また名前を売る為、画廊や資本家が気に入る作品を描いたり造ったりするようになっていきます。

私は子供の頃から、牧師として社会運動に身を投じ、ベトナム戦争に反対し、ベトナムの子供達のために募金運動をし、在日韓国人政治犯釈放のために働いていた父を見て育ちましたので、自分の芸術も何か自分の主義主張、信仰等を訴えるものにしたかったのですが、金が色々左右する現実に幻滅し迷っていました。しかし同じ頃、ニューヨーク日米合同教会の主催するサマーキャンプにカウンセラーとして参加、奉仕させていただく機会を得て、全てが一転しました。合同メソジスト教団の所有するキャンプ場に行き、子供達に聖書の言葉を教え、と言うより共に学び、日頃遅れがちな勉強を補い、スポーツ、水泳、ゲーム他、様々なアクティビティーをしていく中で、子供達に点数で評価できないものを教える事の大切さを知りました。目に見えるもの、偏差値や点数による教育ではなく、学歴偏重の教育でもない、魂の教育、福音伝道の大切さを実感しました。そして献身し神学校に行き、教育伝道に携わる決心をしました。

大学を卒業後、1年間働いてドリュー大学の神学校に入学し「キリスト教教育」を専攻しました。神学校在学2年目に子供の教育だけでなく、大人へも働き掛ける伝道教育に関りたいと思い、牧師になる為の神学修士課程に移りました。神学校では神学、教会史、キリスト教教育、聖書学、讃美歌学、伝道学、ギリシャ語、ヘブル語等々、勉強が実に大変で、一度はそれまでやって来た美術を完全に諦めました。ところが面白い事に、キリスト教を深く勉強していく課程で、大学時代学んだ美術がキリスト教と結び付き、以前には見えなかった絵、特にキリスト教絵画の中の色、形、象徴の意味が理解できるようになりました。

私はよく「宗教画が専門ですか？」と尋ねられるのですが、元々は19世紀、印象派以降の現代美術が専門で、宗教画には全く興味ありませんでした。しかしある日、メトロポリタン美術館に行き、何時もだったら飛ばす中世キリスト教絵画のセクションに何とはなしに足を踏み入れました。その時、それまで解らなかった作品の主題、形、色の意味、象徴する物がハッキリ見えたのです。それはまるで目から鱗が剥げたような、、正にそんな経験でした。ある意味では聖霊体験にも似たような、、。

ドリューで神学修士を取得、エールに移り、そこで更に「宗教と美術」を専攻、聖神学修士を修得しました。卒業後、そのまま博士課程に進もうと希望していましたが、神の不思議な導きで在学中より始めた日本人伝道に道が開かれ、牧会に専念するようになりました。95年にメソジストの牧師試験に受かり、デacon（補教師）として現在のパークリッジ合同メソジスト教会に派遣されました。白人がマジョリティーのアメリカ人教会の牧師として伝道奉仕に携わる傍ら日本語伝道も続けさせてもらいました。97年にエルダー（正教師）試験に合格し、エルダーに昇格し現在に至っています。この9年間、伝道のダイナミズム、牧会の大切さ、チャプレンとして病院に学び、信徒を訪問し、導くことの意義の深さ、喜び、悲しみを体験し、牧師としての仕事が益々好きになりました。一方、少しずつ博士課程進学し、教育伝道に携わるという本来

の召命（招命）がぼやけていきました。口では「博士課程に進み、将来は教育に携わりたい。」と言っていましたが、腰は重くなるばかりでした。昨年9月11日の事件が起こるまでは。

2001年9月11日はアメリカ人のみならず日本人、また世界中の人々にとって忘れられない日となりました。テロリストの自爆攻撃によって、資本主義アメリカの象徴であった世界貿易センター第1ビル、第2ビル、通称ツイン・タワーが一瞬にして破壊されてしまい3000人以上の尊い命が奪われました。以前、この場にも書きましたが、サマーキャンプ時代の教え子のお父さんも犠牲者になってしまいました。何故、このような憎しみに満ちた邪悪な行為が存在するのか？亡くなった人達にいったい何の罪があるというのか？犠牲者の家族、友人に接し、またその後のアメリカの報復を目の当たりにして、日頃、「愛、希望、平和、正義、、、」を説いているのに何も役に立たないという思いから、自分が牧師としてつくづく無力であることを感じました。

「9月11日以降、何万と言う数のニューヨーク市民、州民、ニュージャージー州民、コネチカット州民がPost Trauma Syndrome（トラウマ{精神的外傷、ショック}後遺症、或いは症候群と訳す）で今もって眠れなかったり、精神衰弱や鬱になっている。」とつい最近のニュースで報告していました。また同じく何万とも知れない子供達が悪夢にうなされたり、日常の生活の中で情緒不安定になっているとニューヨーク・タイムズに記載されていました。それを読んだ時、私も同じ症状だと思いました。自分の無力であることに悩み、脱力感を覚え、説教に力が入らない日曜日も幾度もありました。そんな中で浮かんできた思いは「一体どうしたら、そのような邪悪な行為、悪心を根絶できるか？」という疑問でした。

「初心忘れるべからず。」という言葉があります。「どうしたら悪をなくし、善を広められるか」という答えは教育伝道の中にありました。人の心は内側からの回心以外変える事はできない。ではどうしたら回心に導けるか？それには伝道し福音を伝えるしかありません。しかも早い内から、幼い子供のうちから魂の教育をすればするほど良い、、私の中で帰結しました。そう結論が出ると、すぐさまティーチャーズ・カレッジに願書を出しました。私はここにもまた神の不思議な導きを感じました。

絵を描きたくてアメリカにきた自分。しかし自分の信仰、思想がどうしても金本主義的芸術流通世界を受け入れる事ができず、一度はその美術を諦め、教育伝道に進もうと神学校に学んだ。それが今、時間こそ掛りましたが、若い時情熱をかけた美術と信仰の礎であるキリスト教が、理想を展開する教育の場で結び付いた。自分がやるべき道が神に「備えられている」ということを確信すると同時に畏怖の念を覚えます。あたかも旧約聖書の中の預言者ヨナが神の呼び声から逃げ出せなかったように、自分も神に呼ばれその道を歩まんとしている、、と。

人は置かれた環境、教育次第で善にも悪にもなります。子供のうちから憎む事ばかり植え付けられた子供は憎しみを持って他者を迫害したり、殺害しても何とも思わなくなる。一方、子供の時から信仰、愛、平和、正義、調和、希望を教えられ愛に包まれて育った子供は心根の優しい大人、リーダーになる。本当に美しい人間社会を築く要は教育であり、その教育の要はイエスの教え＝愛ではないでしょうか。私はそう信じて疑いません。

今年の後半はこれまでとはガラッと変わり、教会の仕事と学びとで忙しくなり、教会員や皆様に御迷惑をお掛けすることも多々あるかも知れません。私にとっても大きなチャレンジです。しかし常に神の召命を信じて歩みたいと思っています。引続き御指導下さいますようお願いいたします。

吉松 純